

原 著

フッ化物洗口を行っている小学校における給食後の歯みがきのう蝕予防効果

大橋たみえ 石津恵津子 廣瀬 晃子 岩田 幸子 徳竹 宏保
小澤 亨司 福井 正人 米永 哲朗 磯崎 篤則

概要：わが国における小児期および学童期のう蝕は減少傾向にあるが、12歳児のDMFT indexは、いまだ健康日本21の2010年の目標達成にはいたっていない。現在、小学校の学校歯科保健活動としては、昼食後の歯みがき、間食指導、歯垢染めだしによる口腔清掃指導などが行われているが、歯みがきのう蝕発生に対する抑制効果を検証した報告は少ない。

過去20年間で永久歯う蝕は半減し、学童期のう蝕予防対策も現行のものを評価し、現状に即した効果的な方策を検討する必要がある。われわれは、歯科保健活動としてフッ化物洗口（週5回法）と定期的な歯科保健指導を継続的に実施している4小学校（同地域内）において、昼食後の歯みがき活動実施によってう蝕発生に差があるかどうかを検討する目的で、それぞれの小学校入学時のDMFT index、および第一大臼歯の萌出率、卒業前のDMF者率、DMFT index、前歯部DMFT indexを比較した。4小学校のうち2小学校は昼食後の歯みがき活動を行っているが、他の2小学校は行っていない。

その結果、学校歯科保健活動としてのフッ化物洗口（週5回法）の実施によりう蝕発生が少なくコントロールされている本研究対象の4小学校では、昼食後の歯みがき活動の有無がう蝕発生状況へ及ぼす影響は認められなかった。

索引用語：小学校児童、昼食後の歯みがき活動、う蝕、フッ化物洗口